

日本気象学会1997年春季大会の告示

1. 期 日：1997年5月21日（水）～23日（金）
2. 会 場：筑波大学学生会館
3. 研究発表

今大会においては、自分の専門以外の分野にも幅広く触れることができるよう、一般の発表はすべてポスターとし、ポスター1件につき1分以内の概要紹介を口頭発表会場で行う（下記「ポスター・セッションの方法」参照）。その他に、最先端の話題について実質的な議論をふかめるため、6つの専門分科会を実施する。専門分科会では十分な時間をかけた口頭発表をおこなう。専門分科会のテーマは公募され、講演企画委員会の審議によって以下のように決定された（下記「専門分科会の概要紹介」参照）。

講演申込方法については「講演申込要領」（下記）参照。

4. シンポジウム（特別招待講演）

大会第2日（5月22日）に開催予定（内容は未定）。

5. 大会参加費、懇親会費

郵便振込による前納または当日受付による（前納は本号末の振込用紙をご利用ください）。大会当日は混雑しますので、極力前納するようお願いします。

金額は以下の通り。

大会参加費：

	一般	学生
前 納	2,000円	1,000円
当日払	3,000円	2,000円

懇親会費：

	一般	学生
前 納	3,500円	2,000円
当日払	4,500円	2,500円

なお懇親会は大会第2日（5月22日）夕刻に開催予定。

講演申込要領

1. 発表の種類

(1) 上記の通り、一般のポスター発表と専門分科会における口頭発表の2種類となる。

(2) 専門分科会へ申し込まれた講演は、コンピーナーの判断によって専門分科会への採否が決定される。専門分科会に採用されなかった講演は、原則として一般のポスター発表へ変更となる。ただし、申込みの時点で申し出れば（申込用紙に選択欄あり）、不採用時に講演をキャンセルすることもできる。

2. 発表件数の制限

ポスター発表については、1講演者について異なるテーマのもの2件以内とする。この制限に抵触する申込があった場合や、専門分科会からの種目変更によって制限に抵触することになった場合には、講演企画委員会が適切に処置する。

3. 申込方法

(1) ポスターへの申込

・本号末の申込用紙に記入し、予稿集原稿を添えて講演企画委員会に送付する。

[今回はポスターへ多数の応募があることが予想されます。ポスターセッションを的確に編成するために、申込用紙にキーワードの記入をお願いします。]

・申込期限：1997年2月28日（金）必着

(送付先)

〒305 茨城県つくば市長峰1-1
気象研究所予報研究部内
講演企画委員会（小泉 耕）

(2) 専門分科会への申込

・本号末の申込用紙に記入し、予稿集原稿を添えて講演企画委員会に、また両者のコピーを各分科会の代表者に送付する（送付先は下記）。

・申込期限：1997年2月28日（金）必着
(原本送付先)

〒305 茨城県つくば市長峰1-1
気象研究所予報研究部内
講演企画委員会（小泉 耕）

(コピー送付先)

① ADEOS, ADEOS2 ミッションとそのサイエンス
(略称：ADEOS)

〒153 目黒区駒場4-6-1
東京大学気候システム研究センター
中島映至

② 成層圏の力学・化学と気候変動（略称：成層圏）

〒812-81 福岡市東区箱崎6-10-1
九州大学理学部地球惑星科学科
宮原三郎

③ 都市の気候と環境 (略称: 都市)

〒305 つくば市小野川16-3

資源環境技術総合研究所環境影響予測部

近藤裕昭

④ 激しいメソ対流システムの構造と進化

(略称: メソ)

〒164 中野区南台1-15-1

東京大学海洋研究所海洋気象部門

新野 宏

⑤ 気象予報技術 (略称: 予報)

〒184 小金井市貫井北町4-1-1

東京学芸大学地学教室

丸山健人

⑥ 十年/数十年スケール変動 (略称: 十年)

〒153 目黒区駒場4-6-1

東京大学気候システム研究センター

新田 勲

4. その他

(1) 講演者索引を作成するため、申込用紙には講演者の姓名とそのローマ字表記を明記して下さい。

申込用紙記入要領と注意事項

1. 「講演者名」: 講演者1名の氏名を記入する。姓と名の区別を明確にし、ローマ字表記を添える。
2. 「講演者の会員番号」: 講演者の会員番号を記入する。講演者が会員でない場合には、この欄に共著者中の会員の氏名(1名)及び会員番号を記入する(844ページ「非会員の大会講演について」参照)。
3. 「講演種目」: 1つに○をつける。専門分科会への申込の場合には、さらに分科会名(略称可)を記入し、分科会に不採用になった場合の処置として[ポスターに変更]・[キャンセル]のいずれかを丸で囲む。各講演方法の詳細については840, 841ページ「講演申込要領」および「ポスター・セッションの方法」参照。なお件数制限については十分に注意する。
4. 「使用機器」: 専門分科会では、OHP・スライド・VHSビデオが使用できる。機器準備の都合上、スライド・VHSビデオを使用する場合には、必ず○をつける。なおスライド機器の操作は発表者自身(またはその協力者)にお願いする必要がある。また会場の構造上、VHSビデオは見えにくい場合がある。
5. 「著者・所属」: 講演者を含む著者名とその所属を書く。所属はカッコに入れる。共著者名の誤記がないよう、十分に注意する。
6. 「講演題目」: 予稿集原稿の表題を書く。
7. 「キーワード」: 講演種目がポスターの場合は申込用紙裏面のキーワード例を参考にして、主・副に分けて記入する。主・副とも、複数個記入してよい。
8. その他、要望事項があれば欄外に記入する。

申 込 方 法

申込用紙に予稿集原稿を添えて申し込む。申込先・申込期限は840ページ「講演申込要領」参照。なお予稿集原稿は細かく折りたたまないで下さい。

申込用紙は1件について1枚です。講演申込要領の第2項の条件のもとで2件以上申し込む場合には、コ

ピーしてご使用下さい。

大会プログラムは「天気」4月号に掲載されます。分科会への採否や発表日を事前に知りたい場合は、申込用紙についている返信用の葉書に宛先・講演題目を書き、切手を貼って予稿集原稿に同封して下さい。

ポスター・セッションの方法

1. ポスター・セッションは大会期間の午前中に行う予定である。1回のセッションの時間は、約1時間の概要紹介の後、1時間の発表とする。ポスターセッションの時間中は専門分科会は行われない。
2. 概要紹介は、聴衆ができるだけ幅広い分野の発表に触れることができるよう、応募件数に応じて1~2会場で行う。
3. 概要紹介の持ち時間は1分で、OHPを1枚程度用

いることができる。

4. 各講演者は、概要紹介の後ポスターの前で説明を行うが、ポスターの前にいなければならない時間(拘束時間)は1時間のうち前後半いずれか30分とする。
5. ポスターの掲示場所はプログラムに記載される予定である。ポスターの掲示・撤去は講演者自身が行う。なお掲示に必要な紙またはテープは事務局で用意する。

6. ポスターには講演題目・講演者名を明記しておく。
7. 掲示板は縦 90 cm×横 180 cm 程度である。なお

ポスターは大きな紙 1 枚に書く必要はなく、小さい紙に分けて書いたものを当日並べても良い。

専門分科会の概要紹介

1997年春季大会では下記の通り、6つの専門分科会が開かれます。

① テーマ：ADEOS, ADEOS2 ミッションとそのサイエンス

コンピーナー：中島映至（東京大学気候システム研究センター）

趣旨：ADEOS「みどり」の打ち上げが成功し、そのデータ取得が始まった。ADEOSには地球環境監視のための8つのセンサーが搭載されており、そのデータ取得によって、我が国の気象・気候関係者は初めて世界を宇宙から見る自前の目をもったと言える。これを記念して、ADEOS および、その後継機である ADEOS2 のミッションとそれに係わるサイエンスについて分科会を持ちたい。

② テーマ：成層圏の力学・化学と気候変動

コンピーナー：宮原三郎（九州大学理学部）、近藤豊（名古屋大学太陽地球環境研究所）、廣岡俊彦（九州大学理学部）

趣旨：南極成層圏における春先の特異なオゾン減少（オゾンホール）は、極夜に生じる氷晶雲表面上での不均一反応によって生じた塩素及びその化合物による春先のオゾン破壊触媒反応によることが様々な観測と解析ならびに理論・数値実験により解明されてきた。しかし例えば、氷晶雲を発現するような低温はそもそも何故生じたのか、成層圏の低温化につれて北極域でもオゾンホールは発現するのか、火山噴火によるエアロゾルはオゾン変動とどの様にかかわっているのか、オゾン減少による気候変動は如何なる形態をとるのか、対流圏との関係はどのようになっているのか等、未解決の問題は多い。そもそも我々は、これらの問題を解くに十分な大気科学の基礎的理解を手にしているのだろうか。この専門分科会では単に成層圏オゾン減少の問題に止まらず広く成層圏の力学・化学と気候の問題を取り上げ、成層圏の大気科学の総合的理解に向けて多面的な討論を行う。具体的には以下の招待講演と別途募集する一般講演から成る。

[招待講演]

- ・成層圏科学の現状と展望：廣田 勇（京都大学理学研究科）
- ・成層圏対流圏大気化学：近藤 豊（名古屋大学太陽

地球環境研究所）

- ・ADEOS 衛星搭載オゾン層観測センサー ILAS と成層圏大気科学：神沢 博（国立環境研究所）

- ・熱帯域におけるオゾン変動と力学過程：長谷部文雄（茨城大学理学部）・塩谷雅人（北海道大学地球環境研究所）

- ・インドネシアにおける赤道大気力学のラジオゾンデ観測：津田敏隆（京都大学超高層電波研究センター）

- ・成層圏内部重力波と大循環：佐藤 薫（京都大学理学研究科）

- ・成層圏光化学放射結合モデル：高橋正明（東京大学気候システム研究センター）・秋吉英治（国立環境研究所）

③ テーマ：都市の気候と環境

コンピーナー：近藤裕昭，吉門 洋（資源環境技術総合研究所），神田 学（東京工業大学）

趣旨：近年世界的に都市への人口の集中が続いている。都市への人口の集中は、都市の大気環境を悪化させるばかりではなく、エネルギーや資源の効率的な使用という意味においてもむずかしい問題を含んでいる。建築、土木、地理、気象などの各分野においては、それぞれの目的意識にもとづいて、都市環境の改善にかかわる研究がなされているが、近年特にこれらの分野の境界が次第にとりはらわれつつある。都市のような複雑な地表面や熱輸送を扱う新しいモデルの提案、また新しい観測事実や都市特有の問題などの議論を通して21世紀の都市環境のあり方を気象学の立場から議論したい。

④ テーマ：激しいメソ対流システムの構造と進化

コンピーナー：小倉義光（日本気象協会）、武田喬男（名古屋大学大気水圏科学研究所）、吉崎正憲（気象研究所予報研究部）、中村健治（名古屋大学大気水圏科学研究所）、新野 宏（東京大学海洋研究所）

趣旨：近年、TREX（南九州豪雨観測実験）や TAPS（つくば域降雨実験）などの共同実験観測の実施、雲モデルや局地気象モデルの改善、特殊ゾンデなどの実用化、現業用ドップラーレーダーや各地の発雷位置標定システムなどの稼働、航空機搭載の測器の開発などにより、わが国におけるメソ気象の研究は新たな進展を迎えている。本分科会では、これらの成果をふまえて、雷雨・ダウンバースト・竜巻を含む激しいメソスケ-

ル対流システムの構造と進化，メソ降水システムの組織化と降水効率などについて最新の知見を集約し，将来の研究の展望を図ることを目的とする。

⑤ テーマ：気象予報技術

コンピーナー：丸山健人（東京学芸大学地学教室），
木村龍治（東京大学海洋研究所）

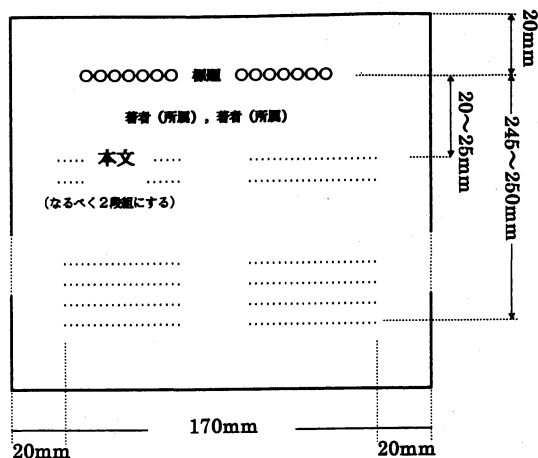
趣旨：初の埼玉・大宮大会（1996年5月）へスペシャル・セッション「気象予報技術」を呼びかけたところ，9件の応募があり，大会2日目の当日，会場は百名を越す参加と活発な質疑応答で盛会でした。一般会員のほか会員外の参加増が目立ちましたが，気象予報士制度の発足に伴い，気象予報技術への新たな関心の高まりも反映しているものと思われまます。後日，何人かの参加者からまたやってほしいとの要望がありました。そこで，来春のつくば大会（1997年5月）にも分科会の1つとして講演を募集することにしました。

気象庁の新しい数値予報技術はもちろん，人工知能技術，ナウキャスト技術，防災情報伝達など広い範囲にわたって気象予報技術に関する話題提供を期待しております。会員外の方々のお申し込みも歓迎いたします。「ニュースレター」をお届けしますので，関心のある方コンピーナーまでご連絡ください。

⑥ テーマ：十年／数十年スケール変動

コンピーナー：新田 勅（東京大学気候システム研究センター），
花輪公雄（東北大学理学部）

趣旨：最近，長期間の観測データから，太平洋や大



A 4判用紙による予稿原稿の作成要領

西洋の大気・海洋に十年～数十年の時間スケールの顕著なシグナルが存在することが明らかになってきた。また，世界の各研究機関による大気・海洋結合モデルによって，ENSOに伴うと思われる数年規模の変動の他に，様々な数十年スケールの変動が得られている。この時間スケールはエルニーニョ・南方振動（ENSO）と地球温暖化現象の中間の時間スケールにあたり，これまで両者の研究ブームの中で埋没していた存在であった。本分科会では，観測データ，大気-海洋モデルの最新の結果を出しあうことによって，総合的に変動の実態とメカニズムに関する理解を深めたい。

講演予稿集原稿の書き方

大会発表を申し込む会員は，以下の要領で予稿集原稿を作成し，本号末の申込用紙とともに講演企画委員会へ送付して下さい。

1. 原稿枚数：1件1枚
2. 用紙：A 4判あるいはB 4判の白紙，または本号末の予稿用紙を使う。原稿はすべてA 4判に整形後，さらにB 5判に縮小してダイレクト印刷される。B 4判はいったんA 4判に縮小コピーされるため，ハーフトーンや階調を用いた図を使用する場合，原稿はA 4判が最も望ましい（ただし，A 4判を使用した場合でも細かい階調は表現できない場合がある）。
3. 記入方法：用紙に直接書くか，別の用紙に書かれた文書・図表を貼る。
4. インク：墨または濃い黒色インクを使う。ワードプロセッサのインクが薄い場合には，コピーしてから使用する（インクが薄いままだと，字がかすれたり，

予稿用紙のます目が浮き出たりする場合がある）。

5. 配置

A 4判用紙を使用する場合（付図参照）：

記載範囲は縦 250 mm 以内×横 175 mm 以内とし，上部には 20 mm の余白をとる。予稿用紙の場合と同様，最上段に標題，その下に著者と所属を書き，本文をその下につける。標題から本文までの間隔は 25～30 mm とする。本文はなるべく2段組（左半分→右半分）にする。

その他の寸法や本文の字数・行数は，厳密に付図の通りでなくてもよい。

B 4判用紙を使用する場合

記載範囲は縦 305 mm 以内×横 215 mm 以内とし，上部には 20 mm の余白をとる。その他の寸法はA 4判の場合の120%を目安とし，全体のレイアウトはA 4判の場合と同様とする。

予稿用紙を使用する場合

1 行目に標題を書く。標題が長ければ2行目も使う。3行目に著者名と所属(勤務先等)を書く。所属は、カッコに入れる。著者が複数の場合には講演者の左肩に*をつける。必要に応じて4行目も使う。5行目以下に本文を書く。本文は2段組にし、左半分→右半分の順に書く。

6. 図および表

墨または濃い黒色インクで、用紙の枠内の任意の箇所に直接描くか、白紙に描いて枠内に貼る。写真や図表には折目が入らないようにする。

7. 著作権：予稿集に掲載された文章および図表の著作権は日本気象学会に帰属する。

8. 送付先・送付期限：「講演申込要領」(840ページ)参照。なお、予稿集原稿を細かくおりたたまないで下さい(2つ折りは可)。

非会員の大会講演について

ここ数年、気象学会の春・秋の大会では、会員でない人が講演を行う例があるようです。

気象学会の定款では“会員は、次の特典を有する。(中略)2. この法人の催す各種の学術的会合に参加すること。”(第8条)となっており、その中には当然、大会における講演も含まれます。その一方、細則では“講演企画委員会または大会委員会が承認した場合は、会員でない者も、学術的会合において講演を行うことができる”(第12条)と規定されています。

講演企画委員会では、実態をつかんだ上で、会員各位のご意見を参考にしながら、非会員の講演について“承認”の具体的な規定を作っていきたいと考えており、前回に引き続き以下のような措置をとります。

この件についてのご意見を、講演企画委員会(事務局は気象研究所・小泉)までお寄せ下さい。

1. 非会員による講演の実態を把握するため、講演申込用紙に会員番号の記入欄を設ける。

2. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員の講演を認める。

3. ただし1997年春季大会における専門分科会に関しては、各コンビーナーの判断にゆだねる。

なお上記の措置は、あくまでも暫定的なものであり、次回以降も継続される保証はありません。講演企画委員会としては、大会発表を行いたい人には会員になって頂くよう望みます。

1996年11月 講演企画委員会

研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。具体的には、大会プログラムへの掲載、会場・機器の手配、時間の調整などが考えられます。支援を希望する方は、右記の事項を明記の上、講演企画委員会へ申し込んで下さい。

申込先・申込期限：大会講演と同じ

記入事項：1. 会の名称とテーマ

2. 代表者の連絡先

3. 希望日時・開催場所

4. 予想参加人数

5. 希望する支援内容

つくばへのご案内

つくばでの大会開催は、1992年につづき4度目になります。交通・宿泊事情は前回大会から改善されておらず宿泊等で御不便をおかけするかと思います。会場に近いホテルは少ないため、早めに予約をされますようお願いいたします。

以下の情報については本学会実行委員会のホームページにて最新情報を順次公開する予定です。

日本気象学会ホームページ(<http://wwwbase.nacsis.ac.jp/msj/>)下の「大会・講演会案内」のページにリンクしますのでご確認ください。

気象学会つくば大会97事務局

〒305 つくば市天王台1-1-1

筑波大学地球科学系気付

TEL：0298-53-4502

Fax：0298-51-9764

E-mail:tanaka@atm.geo.tsukuba.ac.jp

交通案内

つくばは交通の便が一般によくありません。また交通事故が多いのでご注意ください。一部駐車場は用意い

たしますが、数に限りがあるために自家用車はなるべく避けて下さい。やむを得ず自家用車を利用の場合は筑波大学の中央口または松見口の守衛所で必ず入構許可証を受けて下さい。また、駐車は所定の駐車場所に行なって下さい。

会場への交通

・JR 利用の場合

常磐線荒川沖駅または土浦駅下車

ーバス：荒川沖駅東口のりば、土浦駅西口バスターミナル2番のりば

いずれも筑波大学中央行大学会館前下車

ータクシー：いずれからも所要時間約30分（約4,000円）

・高速バス利用の場合

東京駅八重洲南口発つくばセンター行(約15分間隔) 所要約65分終点つくばセンター下車筑波大学中央行に乗り継ぎ大学会館前下車

宿泊施設から会場への交通

つくばのバスは非常に便数が少ないため利用するためには予め時刻表に注意しておく必要があります(時刻表も順次ホームページに掲載予定)。比較的便数が多いのは筑波大学中央-つくばセンター-東(ひがし)大通り-荒川沖駅東口間のバス路線です。他は便数が少ないバスでつくばセンターまで出て乗り継ぐ以外では、タクシーを利用するか送迎バスに頼る必要があります。宿泊予約の際に会場までの便を確認されることをおすすめします。

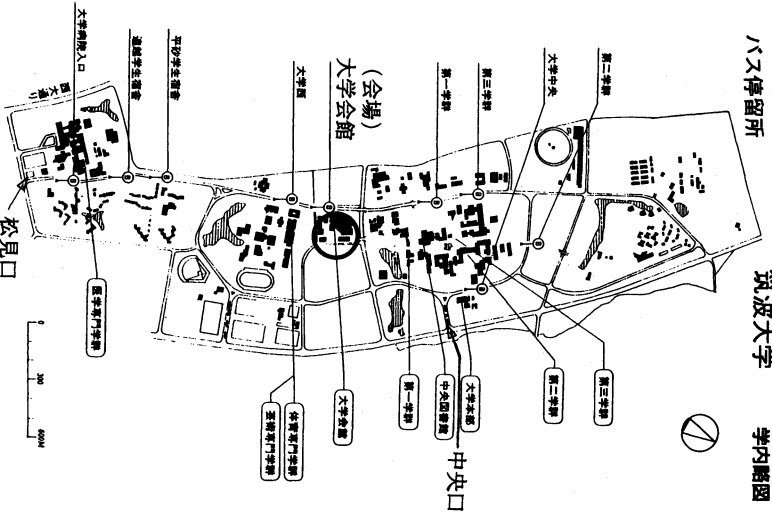
宿泊案内

本情報は11月1日時点の調査に基づくものですが変更される場合等ありますので必ず個別に確認下さい。

バス送迎欄の人数は、バスが出る最低人数の目安ですがホテルによっては他の事情より送迎バスが出ない場合も考えられます。また、送迎バスが利用可能なホテルにつきましては、問い合わせ・予約時に「日本気象学会参加」であると教えてください。

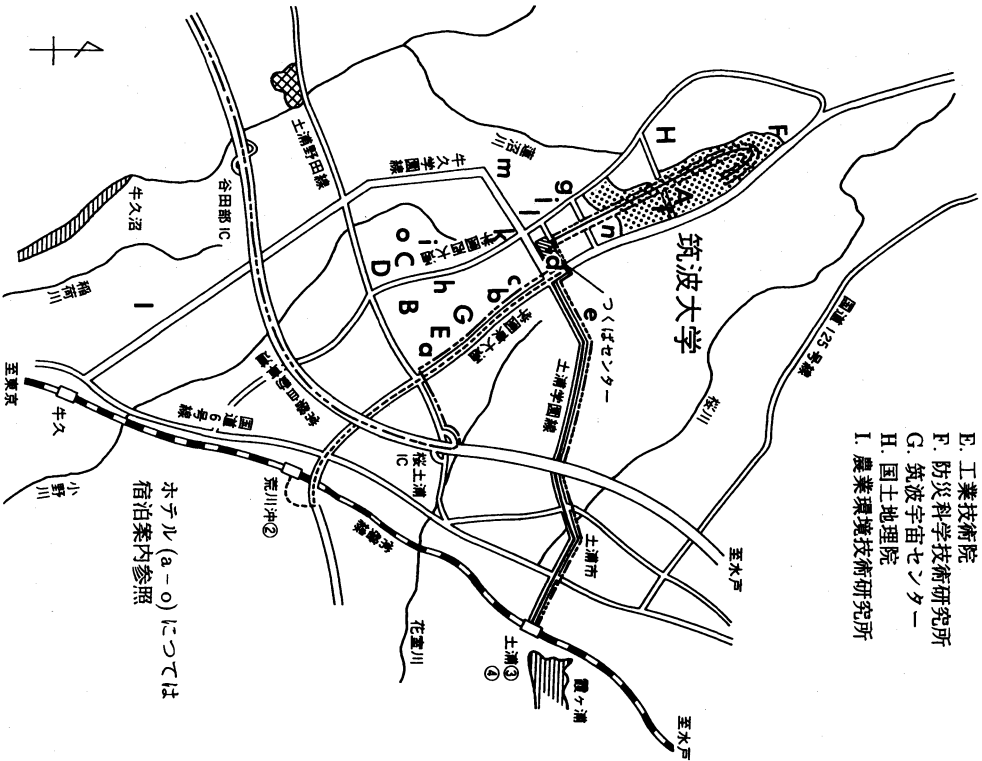
名称	電話 0298-	宿泊料(税込, 1部屋あたり) S シングル T ツイン () 内部屋数	バス送迎 最低人数
a ホテルニュー鷹	51-4788	S (36)6,695 T (24)11,330	要1台2000円
b つくばデイリーイン	51-0003	S (68)6,283 T (13)11,330	×
c ホテルニューたかはし 竹園店	51-2255	S (23)5,974 T (7)9,270	10名
d つくば第一ホテル	52-1112	S (50)10,396 T (54)20,340から	15名
e ホテルサンルートつくば	52-1151	S (51)6,911から T (10)13,256	20名
f トレモントホテル	51-8711	T (12)14,729 (S利用9,064)	徒歩可
g 橘旅館	51-1001	S 6,500から (2食付)	×
h ペンション学園	52-8603	T (22)9,270から (S利用4,840から)	×
i 旭屋ホテル学園店	55-0311	S (14)6,180 T (8)10,300	15名
j ホテル山久	51-4741	T (20)10,000 (S利用6,000)	5名
k 学園桜井ホテル	51-3011	S (46)6,747 T (17)11,742	10名
l ホテルグランド東雲	56-2211	S (47)7,210から T (16)12,800	20名
m つくばスカイホテル	51-0008	S (42)6,386 T (9)10,918	応談
n (財)筑波学都資金財団 筑波研修センター	51-5152	S (146)3,100 T 3,500	
o ホテルスワ	36-4011	S (60)7,004 T (24)12,360	10名

バス停留所 筑波大学 学内地図



- ① 東京八重洲南口→つくばセンター (常盤高速バス)
上り 90～110分
下り 65分
- ② 東京一荒川沖間 63.0km, 70分 (常盤線)
荒川沖駅東口—筑波大学中央 13km
関東鉄道バス筑波大学中央行 32分
- ③ 東京一土浦間 69.6km, 76分 (常盤線)
水戸—土浦間 51.5km, 46分 (常盤線)
土浦駅西口—筑波大学中央 15km
関東鉄道バス筑波大学中央行 40分
土浦駅前2番線から

交通地図



- A. 筑波大学
- B. 気象研究所・高層気象台
- C. 資源環境技術総合研究所
- D. 国立環境研究所
- E. 工業技術院
- F. 防災科学技術研究所
- G. 筑波宇宙センター
- H. 国土地理院
- I. 農業環境技術研究所

ホテル(a-o)については
宿泊案内参照